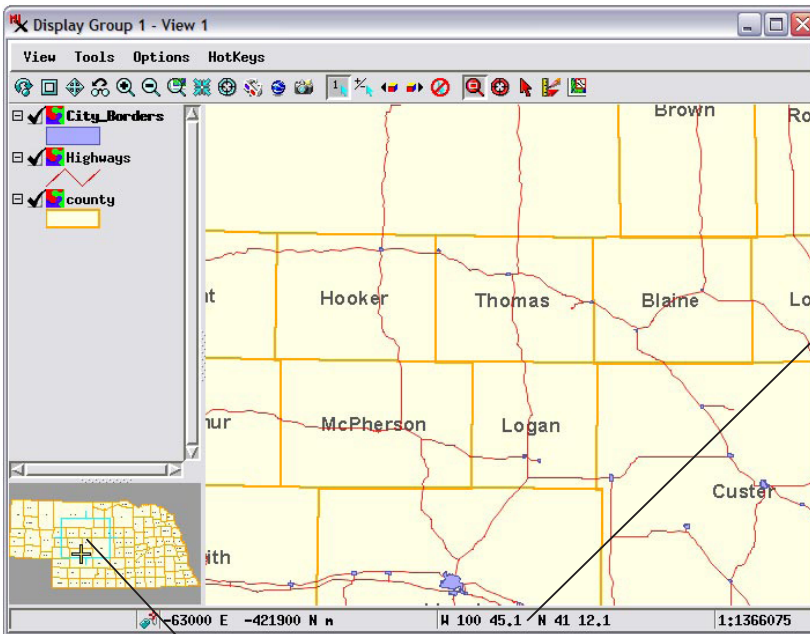


DV 2008:74 新表示ウィンドウ

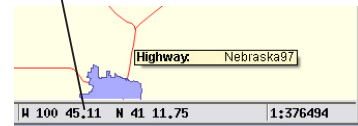
表示処理の新しい表示ウィンドウのベータ版が、DV 2008 : 74 の 2 月 6 日のアップグレードから導入されました。これらの新機能のいくつかを下図で説明しています。

ここ数週間の DV 2008 : 74 では、表示ウィンドウからスクロールバーがなくなって、リアルタイムでのパンとスクロールに置き換わっています（これはマルチスレッド化された操作ですが、この機能を利用するためにマルチコアコンピュータである必要はありません）。



位置レポートの自動精度コントロール

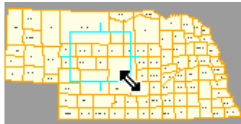
位置レポートに表示されるカーソルの位置の座標の精度は、現在の表示スケールに適した値に自動的に設定されます。座標の精度は表示を縮小している時ほど低く（左図。緯度 / 経度の度 / 分の読み出しの場合）、下図のように拡大している時ほど高くなります。



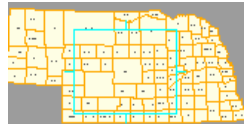
ロケータを使ったパンとズーム

ロケータの中の長方形の枠は、表示ウィンドウに現在表示されている地理データレイヤの位置を示しています。ロケータを使って表示のパン（移動）やズームができます。

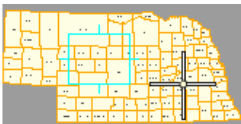
ズーム (拡大・縮小)



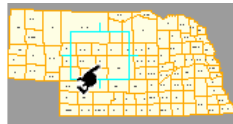
長方形の角や辺をドラッグして表示をズームします



パン (移動)



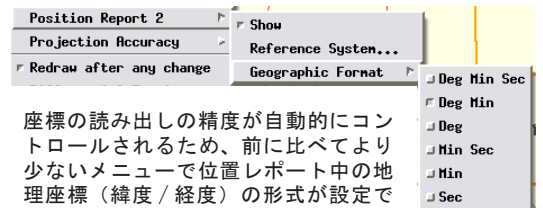
または



長方形の外側を左クリックして、その位置に表示を移動します

長方形をドラッグして表示を移動します

地理座標の形式選択が簡単になりました



座標の読み出しの精度が自動的にコントロールされるため、前に比べてより少ないメニューで位置レポート中の地理座標（緯度 / 経度）の形式が設定できます。

カーソルがロケータの上にある時は、キーボードの矢印キーを使って少しずつ上下左右に移動することができます。